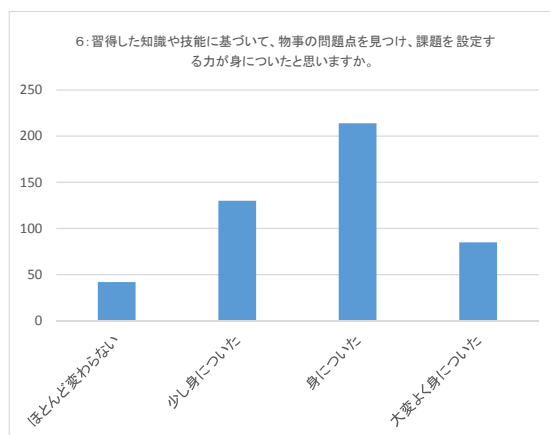
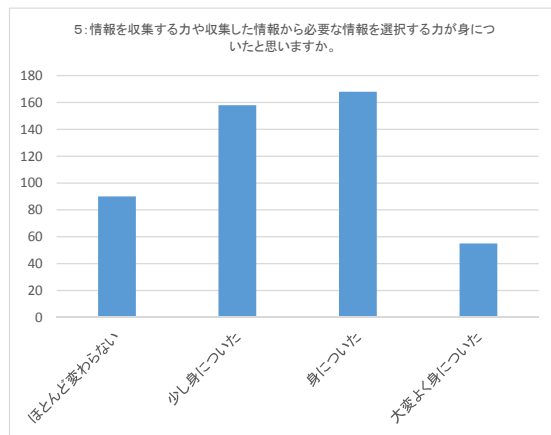
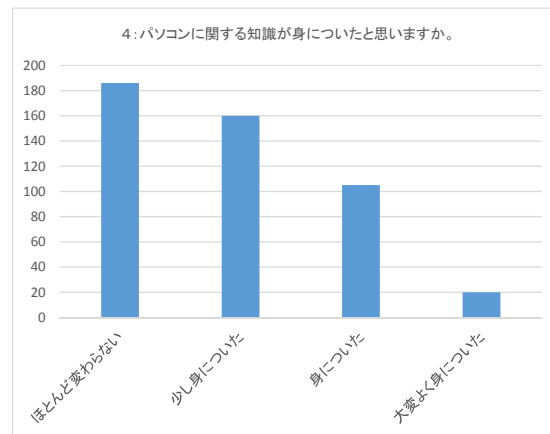
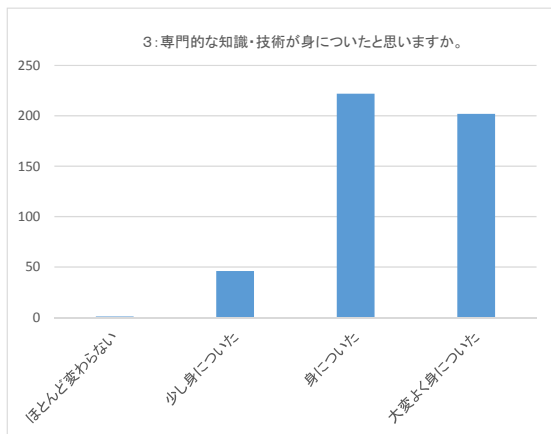
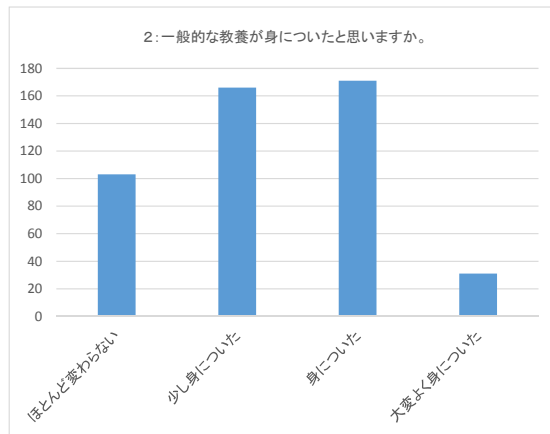
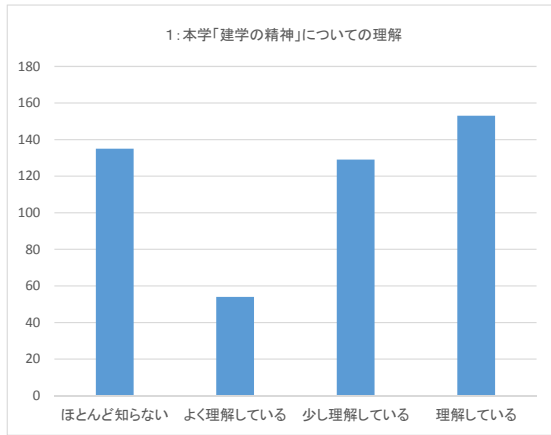
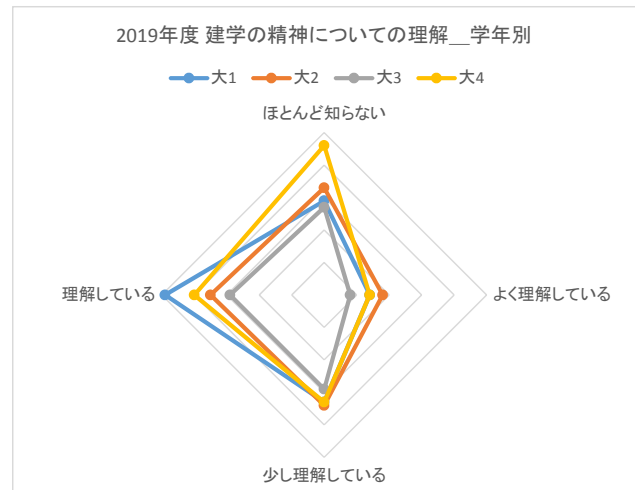
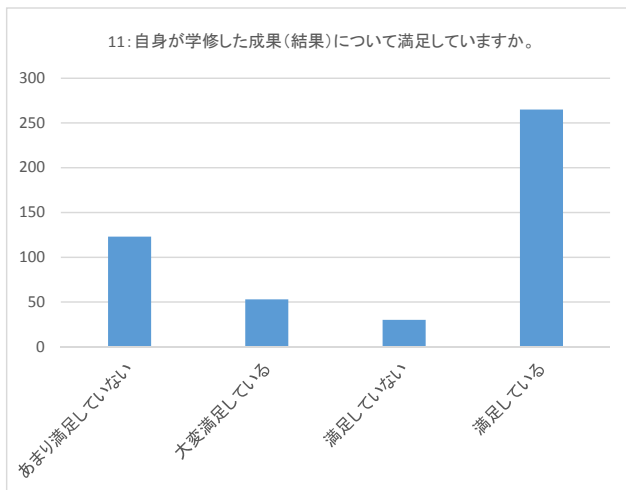
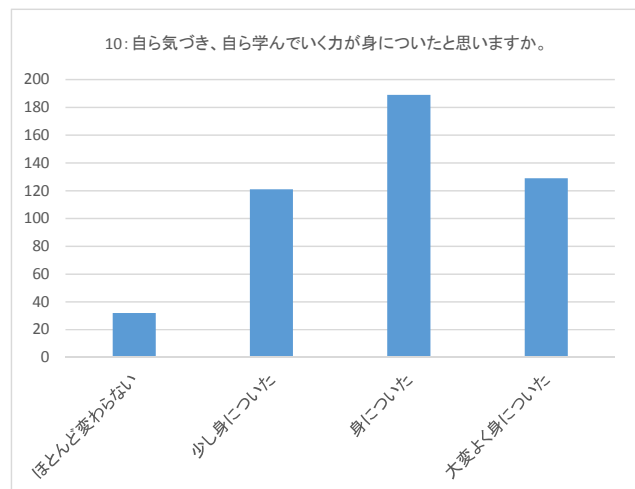
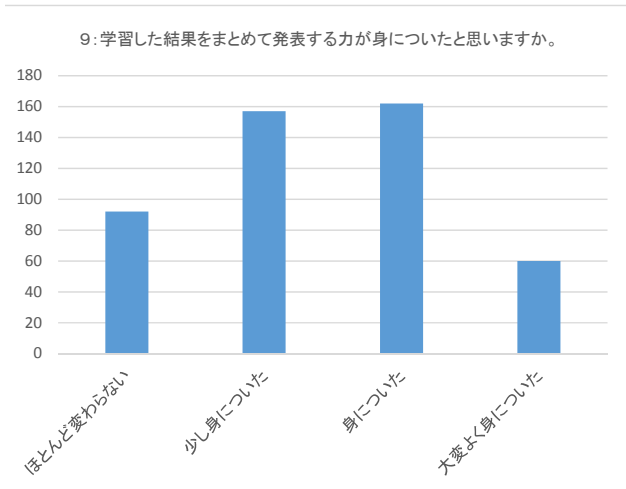
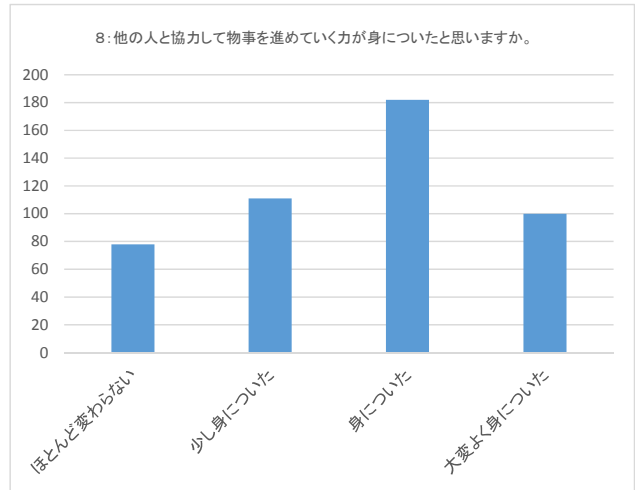
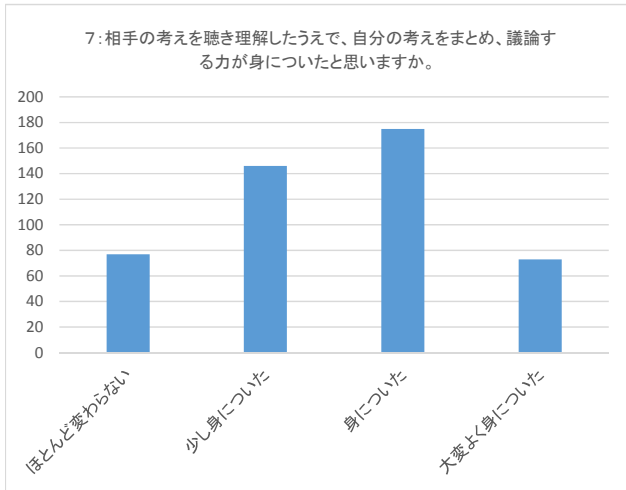
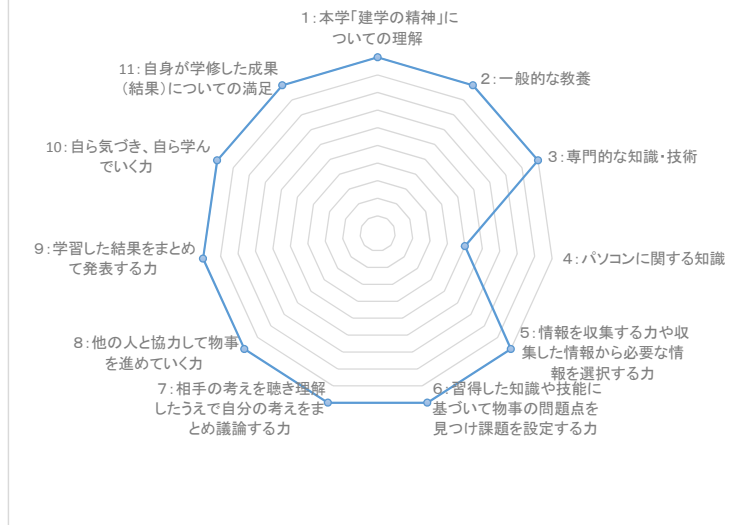


桐朋学園大学／2019年度 学修成果調査（大学生680人対象(記名式)／回答人数471人／ 回答率69.3%）





2019年度 学修成果調査



カリキュラム・ポリシー

～学生がより深く専門性を極めるとともに、多面的な音楽教養を育む～に則って学修が進められているかどうかの検証

学修成果に関する情報は以下の改善に活用する

- ① 教育課程や教育方法の改善 ② 学習支援環境の整備 ③ 学生の就学支援 ④ 学生への履修指導やキャリア相談

【今回の調査から見えてきた傾向】

1. 建学の精神について「よく理解している」「理解している」の回答は43%。大学1年生、4年生、2年生、3年生の順に減少している。
2. 一般的な教養が「身についた」「少し身についた」の回答42%に対して、専門的な知識・技術が「身についた」「大変よく身についた」の回答は90%であった。自己評価においては到達目標が達せられているといえる。
3. パソコンのスキルに関して、入学前と現在の状況が「ほとんど変わらない」の回答は39%であったが、情報の収集・活用について「身についた」「少し身についた」の回答は69%であった。
4. 習得した知識・技能に基づいて物事の問題点を見つけ課題を設定する力に関して「身についた」「少し身についた」の回答は73%であり、課題を多角的にとらえ創造的に考える意志が見える。
5. 相手の考えを聴き理解したうえで自分の考えをまとめ議論する力に関して「よく身についた」「身についた」の回答は53%であり、他者を理解し自発的な発言を生み出すことに課題が見える。
6. 自ら気づき自ら学んでいく力に関しては、専門的な知識・技術と共に、高い自己評価となった。
7. 学修成果(結果)の満足度に関しては「満足している」が56%、次に「あまり満足していない」「大変満足している」「満足していない」の順となった。

【今後の検討課題】

1. 系統性を可視化する「履修系統図」を学生の利用に供することで、主体的に学んでいくための活用ができるよう準備を進める。
2. 組織的な取り組みとして、授業担当者のポリシーの理解ならびに他科目の到達目標・位置づけ等を意識して授業に取り組むことに有効となるFD活動を高める。
3. ディベートの要素を授業内に増やすことを検討していく。